

マダニに注意

山の会こもれび・小森田たかし

中国、韓国に少し遅れて日本でも数年前から、「マダニ」が媒介するSFTS（重症熱性血小板減少症候群）による死者が出て、被害が拡大がしつつある。最近「こもれび」でも五月山のクリーンハイキング中にマダニにとりつかれる会員が続出し、新特別基金（名称変更前）の給付（寄付金）を受けた実績もある。

厚労省は2013年5月からマダニについて初めて大規模な調査を行い、広報もしている。

この作文は、あくまで素人の乏しい経験の記憶と、読み違い付きネット情報の混合物である。

マダニに取りつかれるとほくろのように見える。気付いたときには、すでに口器がしっかりと皮膚の下まで食い込んでいて、指でつまむとやわらかい袋がぶら下がっている感触である。すぐに逃げだす気配はない。一週間以上もそのままじっとしていることさえあるという。

私は2010年ごろまでは、マダニに出会ったことがなかったが、一度見てからは次第に見るチャンスが増え、最近では真冬を除けば毎年のように目にするようになった。

山から帰って、一応は屋外で衣服を振り払い、風呂にも入り、着替えもするのだが、翌日に取りつかれているのに気付いたりする。しかし、血を吸われたことは一度もない。痒くもないので、どうして発見できたのか、いつも不思議に思う。

マダニに取りつかれた人の話を聞くと、血を吸われて腫れたり、痒みを感じたという人の方が多いうようである。私にはこれも不思議。また、太股等のやわらかい部位に喰いつかれることが多く、一度に2匹にやられた人もいる。一方、犬の耳たぶのくぼみに数十匹のマダニがびっしりついて、一部少数の個体が吸血し丸々と肥え太っている写真をWEB上でみると、マダニは寄主（宿主）に痒みを感じさせない特

技も持ち合わせているのだろう。

私の場合マダニとの出会いは、とくに3月～6月に多い。春がマダニの繁殖期と言われることと符合する。動物が頻繁に通る獣道などの草木の葉先で、おそらく想像以上に多数のマダニが獲物を待ち伏せしているのだろう。取りつかれる前にマダニに気付いた場所は大体、濃い藪よりもホストの獣に触れるチャンスの多そうなどころである。

町にタヌキやイタチやハクビシンが住み、たまにはイノシシも川まで下りてくる池田では、空き地の草藪でマダニに取りつかれたり、11月に団地の階段でマダニに出会ったりする。

マダニは人に見られている時はじっと動かないことが多いが、クモと同じ8本足で、まだホストに喰らいついていない時の逃げ足は速い。種類は約20種とも、それ以上ともいわれる。

寿命は2～4ヶ月と思ったより短いらしく、幼虫 → 若虫 → 成虫の3期の間に大きさは0.5ミリから4ミリ程度に（500倍！）成長するという。この3期間に別々のホストに寄生し、吸血し、満腹すると地面に落ちる。落ちた幼虫と若虫は脱皮し、次のホストに取り付く。落ちた成虫のメス？は3000個ほど産卵してそのまま？死を迎えるという。このライフスタイルは平均的なものだとしても、秋から冬の長い時間をどんな状態で過ごすのかなど、疑問だらけである。いずれにせよ、卵から成虫になる割合は小さい（0.1%の桁）と思われ、温い所を好むと言われるマダニは温暖化によって急激に増えつつあるのか。

マダニは、2011年に初めて特定されたSFTSウイルス以外にも、リケッチア等の細菌

を媒介し、「日本紅斑熱」や「ライム病」「回帰熱」を発症する。SFTSの発症確認は西日本から広がったが、いまでは北海道に達している。昨年、弱った野良猫を助けようとした、西日本の50代女性が噛まれてSFTSを発症し死亡した。哺乳類を介したSFTSの感染例としては世界初だという。上記の各感染症の潜伏期間はいずれも1~2週間程度で、SFTSの患者は約300人、致死率は6~30%で国や地方によって異なる。死者の数はハチ刺されのそれに近づいている。

自分の身体に喰いついたマダニを発見するのは山から帰った後で、大抵開業医の時間外だが、自分で処置できるケースは意外に少ない。そのため、マダニの上からセロテープを貼り付けたまま寝て、翌朝皮膚科に駆け込んだこともある。処置といっても普通はピンセットで取り除き、消毒し、クラリスロマイシンなどの抗生物質を3日ほど服用する程度だが、連休で近所の皮膚科が休みとなり、仕方なく救急病院に行くと手術ということになる。

池田市以外で出会ったマダニ

・2013/5/21 泉南のお菊山付近の藪っぽいところで休憩中、地図の上を歩く大きなマダニを発見、これはタカサゴキララマダニに良く似ていた。帰宅後、別の小型のマダニにとりつかれているのに気付いた。

・2016/3/17 妙理山。(柳ヶ瀬付近) 枯れ草程度の藪が出ている残雪の道の幅広いところで食事中、ザックの上を歩いているマダニを発見。写真を撮ろうともたついている間に逃げられた。 以上